

巻頭言：図書館は成長する有機体である

— 私たちに寄せられている期待にいかに応えるか— . . . . . 1

特集：横浜市立図書館情報システムの全面リニューアルについて . . . . . 2

研修会レポート：「中央区立京橋図書館見学」見学研修 . . . . . 4

連載：わたしのイチオシ「神奈川工科大学附属図書館～創立60周年記念展示について～」 . . . 6

## 図書館は成長する有機体である

— 私たちに寄せられている期待にいかに応えるか—

神奈川県図書館協会長（神奈川県立図書館長）市川 秀樹

本年4月から、神奈川県図書館協会長に就任しました神奈川県立図書館長の市川です。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

本協会は、昭和3年の設立以来、90有余年の歴史を誇り、県内の公共図書館、大学図書館、専門図書館が連携して、調査研究、人材育成、読書活動の推進などに取り組んできております。令和6年の会員図書館数は138館、蔵書数は約3640万冊を超え、地域の情報拠点として、多くの利用者に様々なサービスを提供することで、県民の皆様の生涯学習の推進などに大きく寄与しております。

さて、私たちはコロナ禍という未曾有の体験を経てきました。それを境に世の中のあり様が劇的に変化し、もう決して戻ることはありません。

グローバル化が進展した社会経済状況の中で、急速な情報化や技術革新は私たちの生活を質的に変化させ、誰もが先を予測することが困難な時代を迎えています。私たちは自らの人生をどのように切り拓くか、生き抜く力を若いうちから蓄えていくことが求められています。

そこで、県では、本年3月に「第5次神奈川県子ども読書活動推進計画」を定め、「家庭」「地域」「学校等」「専門・関係機関及び団体等」が緊密に連携を図ることで様々な取組を進めていくとしており、私たち協会も積極的に連携協力を行っていく

必要があります。

「図書館は成長する有機体である」、これはインドの図書館学者S・R・ランガナタンの有名な言葉です。コロナ禍の経験、情報のデジタル化、読書バリアフリー法の制定など図書館を取り巻く急速な環境変化によってだけではなく、図書館は地域住民や利用者との相互作用によって、日々変化し成長していくものだと認識しております。

いま、私たち図書館が求められているのは何でしょうか。私たちは市民からどのように見られているのでしょうか。このような視点に立って、ライブラリアンとしてどのようなサービスが提供できるか考え、トライし続けていくことがこれまで以上に必要になってきていると思います。

「知の拠点」としての図書館に求められる期待は益々大きく、そして図書館の活動を支援していく協会の果たす役割は、同様に意義深く大きいものであります。

私たちに寄せられている期待にいかに応えるか、本協会の会員同士の連携をさらに深め、豊富な経験と叡智を結集して、図書館活動の一層の振興に向けて、協会として支援していきたいと考えますので、会員の皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 特集：横浜市立図書館情報システムの全面リニューアルについて

## ●「横浜市立図書館情報システムのご紹介」

横浜市立図書館は 2024 年 1 月に図書館情報システムをリニューアルしました。リニューアル以前から提供していた蔵書検索ページでの蔵書検索・予約機能、市内関係機関の横断検索機能等は継続しながら、「非来館サービスの充実」や「モバイルファースト」をコンセプトとした新サービスも導入しました。新しい図書館情報システムが、以前から図書館を活用されていた方はもちろん、これまで図書館に馴染みのない方にも、横浜の図書館って面白そうかも、足を運んでみようかな、と関心を寄せていただく一助となることを目指し、運用しています。

### 1. 従来機能の拡張

蔵書検索・利用登録といった蔵書検索ページとしての基本的な機能も、より使いやすくなるよう機能向上を図りました。

#### (1) 検索

横浜市立図書館では、デジタルアーカイブ『都市横浜の記憶』や電子書籍サービスといったオンラインサービスも提供しています。しかし、旧システムでは、各サービスから資料を探すためには、個別の検索ページで都度キーワードを入力する必要がありました。今回のリニューアルでは蔵書検索ページにて、これらの資料がまとめて検索対象に条件設定が可能のため、形態の違いを意識することなく、お探しの資料を見つけることができるようになりました。

そして、検索結果にたどり着いた後にも、次なる本との出会いへ続きます。まずは『関連資料』機能です。その資料を借りた方がこれまでに借りた資料をご紹介します。そして、各資料の所蔵情報欄には『Web 書棚』機能を設けました。『Web 書棚』ボタンをクリックすると、各資料の請求記号を基に、所蔵館の棚に配架されている様子を再現したイメージをご覧いただけます。文字情報だけの背表紙モードと書影が見えるジャケットモードに切り替えが可能で、図書館内でブラウジングして、気になった本を手にとって選ぶ楽しさを疑似体験できます。

#### (2) 利用登録

利用登録は、完全に非来館で可能になりました。オンラインで新規登録をし、デジタル図書館カードの発行を受ければ、そのまま電子書籍の利用を開始することができます。すなわち、利用登録から資料閲覧まで来館をせずに図書館資料を活用いただける環境が整いました。本市は市域も広く、地理的要因から図書館が利用しづらい市民の方がいらっしゃいます。オンライン利用登録が、そういった方々も図書館資料をご利用いただく足がかりになることを期待しています。

## 2. 新サービス

### (1) 蔵書探索 AI

蔵書探索 AI は非来館サービス充実の一環として、本市が全国で初めて導入しました。

これまでの蔵書検索ではタイトルや著者名など、書誌情報に一致するキーワードを入力しなければ、望ましい検索結果を得ることはできませんでした。一方、蔵書探索 AI は入力された単語・文章の意味を AI が解析し、マッチ率の高い図書をご提案します。従来の検索が、キーワードをもとに該当する資料を絞り込むようなイメージだとしたら、蔵書探索 AI は、キーワードをもとに関連するキーワードを拡張し、それらに該当する資料を提示します。なお、AI の学習データは書誌情報のみで、利用者情報や貸出履歴などは含まれていません。さらに、本市が保有する書誌情報の中でも一定の文字量を有する書誌のみを対象とすることで、入力キーワードと AI の提示する資料が大きく乖離することを防いでいます。



横浜市立図書館 蔵書探索 AI

<https://newopac.library.city.yokohama.lg.jp/home>

また、AIによって拡張された領域には、従来の検索条件では該当しなかった資料も含まれるため、「期待していた検索結果と違った」というご意見もありました。そのため、読みたいタイトルや著者が定まっている方は、これまでどおり蔵書検索ページをご利用いただき、蔵書探索 AI では思いがけぬ出会いをお楽しみいただき、というように、それぞれのシステムの長所に合わせた使いどころをご案内しています。

蔵書探索 AI を実際にご利用になった方からは、「これまで Google や Amazon で読みたい本を探して、タイトルが判明してから図書館のサイトで検索していたが、その手間が不要になった」「どんなキーワードでも、なにかしらの本がヒットするのが良い」といったご感想をいただきました。

## (2) LINE 連携

LINE 連携は、「モバイルファースト」を意識した新サービスとして開始しました。横浜市 LINE 公式アカウントからデジタル図書館カードの表示やトーク画面での蔵書検索が可能です。LINE のみでご利用いただけるサービスとして、『チャットで利用案内』と『コレヨム?』を搭載しました。

『チャットで利用案内』は、その名のとおりに、チャット形式（トーク画面での話し言葉での入力）で図書館に関する質問にお答えします。チャットボットによる自動応答のため、有人での対応となる窓口・電話・メールでのお問い合わせと異なり、24 時間 365 日の回答が可能となったことが最大のメリットです。チャットボットには事前に想定 Q&A を学習させています。想定 Q&A はこれまでのお問い合わせでお寄せいただいた、開館時間や図書館へのアクセスといった図書館の利用に関する基本的な内容がベースです。また、LINE での利用が見込まれるデジタル図書館カードの表示に関してのお問い合わせにはできるだけ確に回答ができるように調整をしました。

『コレヨム?』は図書館であらかじめ設定したブックリストからランダムに 1 冊の資料をご紹介します。明確に読みたい本は決まっていなくても、なにか読みたい。そんな気持ちで図書館にふらっと立ち寄って展示コーナーを眺めていたら、今の気分ぴったり合う 1 冊があった。そんな出会いを、来館せずに指先一本でご提供します。ブックリストは LINE というカジュアルなインターフェイスに合わせて、①赤ちゃんといっしょに、②ヨコハマに出会う、③おいしい本、④スキルアップ、⑤リフレッシュ！リスタート！、⑥感性を磨く、という気軽に楽しめる 6 つのテーマを設定しています。いずれのテーマも当館の司書が選書をしました。

LINE 連携サービスは、LINE アプリをインストールした端末があれば、どなたでもご利用可能です。この機会に横浜市 LINE 公式アカウントを友だちに追加していただき、ぜひお試しください。



横浜市 LINE 公式アカウント  
ID : @cityofyokohama



## 3. 今後の展望

蔵書検索ページの全面リニューアルは、ご利用の皆様へ操作感の変更を強いることとなった一方で、「覚えてしまえば楽だと思う」「見やすくなった」というお声をいただけることもありました。引き続き、多くの方にとって使いやすいシステムを目指して改善してまいります。

また、今回のリニューアルでは、LINE 連携を実現したことで外部システムとの連携ノウハウという大きな収穫がありました。外部システムとの連携は、これまで図書館を利用していなかった方へ、他のシステムを媒介して図書館資料や図書館の存在をアピールする機会を生み出してくれま。来年度には、本市で運営する子育て支援サイト・アプリ『パマトコ』とのシステム連携を予定しており、これをきっかけに、さらに多くの方が横浜市立図書館を利用してくださることを期待しています。

(横浜市中央図書館 横尾菜穂)

●**見学先概要**

中央区立京橋図書館は、令和4年12月に、中央区立郷土資料館とともに、新設された複合施設「本の森ちゅうおう」(東京都中央区新富1-13-14)に移転しました。

「本の森ちゅうおう」は、JR京葉線・東京メトロ日比谷線の八丁堀駅から徒歩1分の場所にあり、地上6階、地下1階建ての建物で、図書館は2階の一部と3階から5階です。

令和5年4月現在の蔵書数は361,000冊、雑誌284種、CD・DVDが10,476タイトル、新聞19紙で、座席数495席の規模の図書館です。

特色として、震災や災害を乗り越えた戦前の古い図書の所蔵と地域資料室が挙げられます。昭和20年(1945年)以前に発行された図書の所蔵数は、約26,000冊です(数字は中央区立図書館ホームページより)。

また、京橋図書館の運営は、(株)図書館流通センターが指定管理者として担っています。



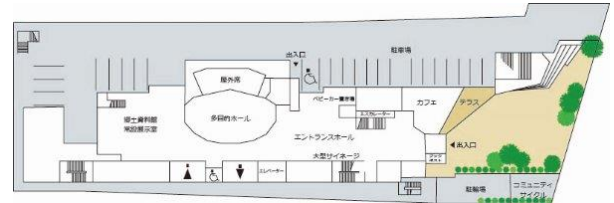
●**研修会概要**

1. 施設見学(図書館以外の部分も一部含む)

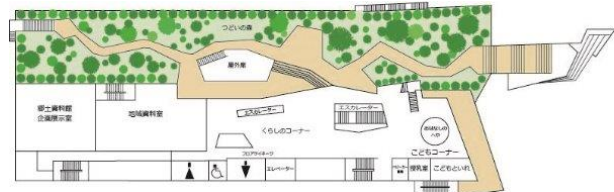
2班に分かれ、図書館(バックヤードを含む)を中心に、中央区立郷土資料館など、本の森ちゅうおう全体についても見学し、ご説明いただきました。当初、中央区立郷土資料館の見学の予定はありませんでしたが、ご厚意で見学することができました。

(見学場所)

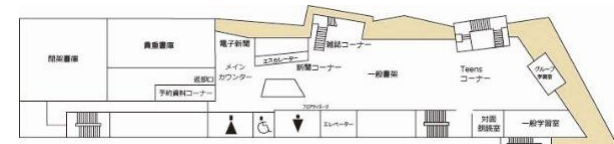
- 1階：中央区立郷土資料館常設展示室、多目的ホール  
※1階は、カフェ以外の場所を見学



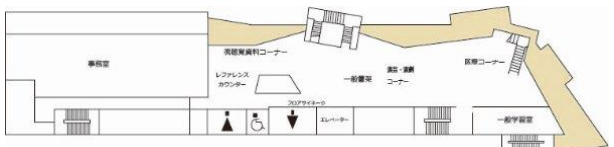
- 2階：図書館(こどもコーナー、地域資料室ほか)、郷土資料館企画展示室、つどいの森(建物外)



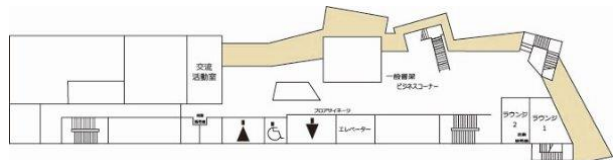
- 3階：図書館( Teens コーナー、雑誌・新聞コーナー、メインカウンター、対面朗読室、グループ学習室、一般学習室ほか)



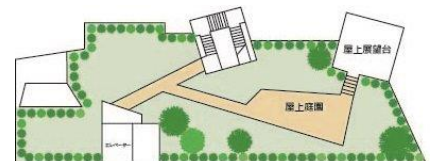
- 4階：図書館(視聴覚資料コーナー、一般学習室、医療・健康コーナー、演芸・演劇コーナー、レファレンスカウンターほか)



- 5階：図書館(ラウンジ、ビジネスパソコンコーナー、洋書コーナーほか)



- 6階：屋上庭園



(中央区立京橋図書館、京橋図書館 館内案内図より、<https://www.library.city.chuo.tokyo.jp/contents?1&pid=108><https://www.library.city.chuo.tokyo.jp/contents?1&pid=108>)

## 2. 「京橋図書館」および「本の森ちゅうおう」

### 概要説明

中央区立京橋図書館、中央区立郷土資料館の職員の方から、概要説明をしていただきました。

### 3. 質疑応答

イベントの企画やイベント参加者の区民の割合、書庫内の資料提供や予約本のピックアップといった職員の動線、地域ニーズの把握や地域・企業との連携、多世代間交流、勉強目的の来館者を本の貸し出しや読書活動にどのように結び付けているのかといったことや、注意事項などの館内表示についてなど、様々な角度から多くの質問をし、回答をいただきました。

### 4. 感想

「本の森ちゅうおう」の基本的なコンセプトが「生涯学習の拠点施設」ということで、図書館も、あらゆる世代の居場所づくりや地域の交流の場となっていると感じました。

2階のこどもコーナーには、開催したイベントで制作した作品や、講師（絵本作家）の方からの色紙などが飾られていて、参加者だけでなく、絵本に関心がある人にとっても嬉しくなる展示だと思いました。

多くの図書館にとって、若い世代を呼び込むことについては課題となっていると思いますが、京橋図書館は、旧図書館の時と比べ、ティーンズの利用も大幅に増加したとのことでした。

利用者増の要因を尋ねたところ、「新しくきれいな施設で、無料で利用できるということは、学生さんには魅力的だ」ということでしたが、ティーンズコーナーに職業体験生のおすすめ本が紹介されていたり、ビブリオバトルの決勝戦を図書館で開催したり、ティーンズ対象のグループ学習室が人気であったりすることなどから、図書館の工夫や努力によって、学生のニーズを把握し、来館者とのつながりを大切にして、利用者の増加につながっていると感じました。

中央区は歌舞伎や落語などとも縁が深く、演芸・演劇コーナーが設置されているのも京橋図書館の特徴の一つです。

日本の文化や地域に関連したイベントは、いつも盛況とのことでした。中央区に関連した歴史や文化に関心がある方は非常に多く、地域資料室では、地域のことや、歴史について深く学ばれている利用者の期待に応えるべく、大変勉強されているようでした。

本の森ちゅうおうでは、様々なイベントの開催や展示があります。併設の郷土資料館の展示は、デジタル式で新しさを感じるものが多く、親子での来場も多いようです。

また、他ではあまり見られない人気のイベントの一つに6階の屋上庭園を活用した「星空観望会」があります。屋上庭園に向かう図書館の階段は、ガラス窓から明るい日差しが差し込み、階段横のスペースを活用してきれいに並べられた書籍や広報物が印象的でした。

移転・リニューアルすると、大幅に利用者が増えますが、それから一年以上経った現在でも利用者数は減っていないということです。職員の方からは「区民満足度を高めたい」というお話がありました。

魅力的なイベントや展示も数多く行われているということも勿論ありますが、職員の方々が「居心地の良い空間を提供する」という思いで日々取り組まれていることが満足度を高めることにつながっているように感じました。

特にティーンズの利用者に対しては、学習室目的の来館であろうが構わない、たまにでも図書に触れ、図書館をきっかけに、いろいろな興味を持ってもらえばよいといったお話もありました。「区民の居場所づくり」を意識した考え方だと思います。

今回の見学は、県内で働く図書館員の資質向上に資する有意義な研修となりました。

(横須賀市立中央図書館 星かおる)

## 神奈川工科大学附属図書館 ～創立 60 周年記念展示について～

幾徳学園 神奈川工科大学は大洋漁業（現マルハニチロ）を創業した中部家によって創立され、2023年に学園創立 60 周年を迎えました。本稿では「創立 60 周年記念展示」と銘打ち本学図書館が実施した大学に所縁の深いコレクション資料の企画展示（全 4 種）をご紹介します。

### ●各展示について

#### 第 1 弾：中部家編（4 月～6 月）

初代理事長 中部謙吉の『小さい規模であるが、費用もかからず、空気のよい所で心おきなく勉強できるような学校を作り、社会の恩に報いたい』との思いで創立したのが幾徳工業高等専門学校（後の神奈川工科大学）です。新入生が大学のルーツに触れる機会とするため 4 月スタートの企画として、文化人・経済人としての中部家の人々の著作に加え、中部謙吉や大洋漁業の創業者である中部幾次郎の銅像も展示しました。



#### 第 2 弾：大洋漁業・捕鯨編（4 月～6 月）

「大洋漁業」および、大洋漁業の主要事業の一つである「捕鯨」関連の図書の展示となり、『大洋漁業 80 年史』や『大洋漁業・捕鯨事業の歴史』等、会社の歴史や当時の捕鯨の様子が分かる資料の他、中部家がオーナーを務めた大洋ホエールズ（現：横浜 DeNA ベイスターズ）関連資料を展示。捕鯨関連は様々な鯨を図絵で紹介した『鯨類図譜』や、捕鯨の様子を描いた『鯨之圖巻』等を展示しました。



#### 第 3 弾：60 年の軌跡編（4 月～6 月）

本学の 60 年の歴史を振り返る年表を作成・展示。年表には、60 年に渡る世の中の動きと本学の歩みを記し、各年代の本学に関連する新聞記事を併記するものとなりました。



#### 第 4 弾：施設編（10 月～1 月）

現図書館棟オープン時の写真や、当時の図書館利用案内、利用者用の各種帳票（閲覧証、個人図書持込票）等、図書館の歴史を振り返る史料に加え、学内の特色ある施設として、石上純也氏設計の「KAIT（カイト）工房」、「KAIT 広場」を集中的に取り上げました。両施設が特集された建築雑誌の紹介を中心に KAIT 広場については、設計当時作成された初期提案書など貴重な資料も展示しました。



### ●終わりに…

2024 年春、e スポーツおよび地域連携、貢献のための新たな建物「KAIT TOWN」が新設され、図書館 1 階フロアも学生の憩い・寛ぎスペース「HUG（ハグ）」として生まれ変わりました。60 年の歴史を踏まえつつ、本学は学生・地域の皆様のために新たな歩みを続けて参ります。

（神奈川工科大学附属図書館 田岡壮平）